

1 学 年 第6学年（2019年度）

2 教 科 算数科

3 実践内容

算数の複式授業ではどの单元でも「一人学び」→「学び合い」の形をとって授業を行っている。

一人学びでは、自分の考えを一つだけではなく、多様な考えを書くように声を掛けた。自力解決に困っている児童もいるかもしれないので、絵や図などを用いて納得してもらえらるような説明ができるようにすることも心掛けさせた。

学び合いは、児童が司会をして黒板の前で進めさせた。発表は、問題が解けた児童ではなく、途中で困ってしまった児童にまず発表させた。その児童の発表を受けて、他の児童が次にどのように考えればよかったのか、どうしたら答えにたどり着いたのか、困ってしまった児童に納得してもらえらるよう説明させた。複式支援員と事前に打ち合わせをし、自力解決に困ってしまう児童が固定化されないよう、一人学びの時間に支援してもらったり、ヒントカードを用意したりして考えをもてるようにした。また、学習内容が着実に定着するように教師が児童を揺さぶるような発言をしたり、友達の考えを他の児童にもう一度発表させたりもした。

「めあて」は児童に考えさせ、主体的に活動ができるようにさせた。また、「まとめ」も自分の言葉で書かせ、今日自分ができるようになったこと、学んだことを明確にさせた。

4 成果と課題

○一人学びの時間が終わった際に、教師がもう一方の学年をまだ指導していると、児童は自分たちで学び合いを始めることができた。

○説明をする児童が「これは分かる？」「ここまで大丈夫？」など、聞き手の様子を確認しながら発表するようになった。

○自力解決できない児童に納得してもらうために、図や数直線など既習の学習内容を板書して説明できるようになった。

△時間配分がずれると、もう一方の学年の学び合いに最初から参加できないことがしばしばあった。

△学び合いの際に全員が自信をもって発表できていないので、グループ交流を取り入れるなど授業形態を工夫し、自信をつけさせて学び合いをさせていきたい。